（別記）

Ｒ８年度大野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大野市の農業は、豊かな農地や水資源、寒暖差の大きな気候などの自然環境に恵まれ、これらに裏付けされた良食味米や質の高い園芸作物が作り出されている。良質な米が生産されることから、種籾や酒米「五百万石」「さかほまれ」の産地としても広く知られている。園芸作物では、特産作物のサトイモは全国的に知れ渡った名産であり、中でも「上庄さといも」は国の地理的表示（ＧＩ）に登録されたブランド農産物となっている。

本市の作付体系を見ると、担い手や集落営農組織は水稲を中心とした大麦あとソバや大豆の転換作物を組み合わせた２年３作の体系が基本となっており、その他は地域の実情に合わせながら、サトイモやネギ、ナスなどの園芸作物を取り入れた複合経営となっている。

近年は、市内の道の駅や農林水産物直売所などへの出荷に取組む直売活動も活発となり、季節に応じて様々な種類の野菜や花卉などの、少量多品目栽培に取組む経営体もある。

このような状況ではあるが、作付けの中心は主食用米であり、令和７年産米の市場での価格の高騰による民間在庫の増加からの反動が懸念されるなど米の価格安定化が進まず、また最近の高温や豪雨など気候の変動による米の品質の低下や、肥料や薬剤、農業用資機材などの価格高騰が、本市の農業経営にも大きな影響を与えている。

また、高齢化や人口減少による人材、後継者の不足、加えて有害鳥獣による被害の拡大などにより、中山間地域や小区画農地などの採算性の低い農地を中心に、不作付地や耕作放棄地の増加が懸念されている。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

担い手や集落営農組織における高品質・良食味米生産への取組みを基本とし、多様な担い手が活躍できる環境の中で、「儲かる農業」の実現に向け、加工用米や新規需要米、サトイモやネギなどの特産作物をはじめとする野菜や花卉、果樹などの園芸作物の導入を推進し、農業経営の複合化を図ることで所得の向上を目指す。また、転換作物の中心となる大麦、ソバ、大豆の生産性向上や高品質化に向けた取組みを推進し経営の安定化を図る。

小規模農家においては、特産作物をはじめとする園芸作物の生産を推進し、ＪＡや市内道の駅等の農林産物直売所への出荷を促進することで収益力の向上を図る。

加えて、スマート農業の導入を推進することで作業の効率化や省力化などを図るほか、自然環境に配慮した環境調和型農業を推進することで農産物の付加価値の向上を図るなどにより、収益力の更なる向上に努める。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

引き続き、担い手や集落営農組織への農地の集積、集約化を進めるとともに、ブロックローテーションによる水稲＋大麦あとソバ、大豆の２年３作の作付体系を維持しながら、適地適作、地域の実情に応じた転換作物の導入を推進し水田の有効利用を図る。

令和６年度から令和８年度においては、地域の効率的土地利用に配慮しつつ、現地確認で水田の利用状況を確認し、地域の実情に合わせた畑地化を進めることで、水田の有効利用を図っていく。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

生産数量の目安に沿った作付面積を確保するとともに、コシヒカリを中心に高

品質米の生産に向けて生産技術の向上を図り、需要動向や集荷業者の意向を勘案しながら米の生産振興を推進する。
　また、高品質な主食用米の新品種の作付け拡大など、米のブランド化を目指し産地としての地位を確保する。

（２）備蓄米

　国の動向を注視しながら、調整水田や不作付地の解消、また畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、一定の生産を確保していく。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

　需要に応じた生産促進と農家所得の確保に向け、多収品種の導入を促し、安定した生産を目指す。

イ　米粉用米

　用途別基準設定により、米粉の利用を促進し生産を維持する。

ウ　新市場開拓用米

　大規模農業法人において、国外の新市場開拓用の米の生産を推進していく。

エ　WCS 用稲

　省力・低コスト化のために、市内の畜産農家と連携を図り耕畜連携による堆肥の活用を積極的に導入し、水田の有効利用を図る。

オ　加工用米

　実需業者との結び付きを強化しながら生産を確保し、調整水田や不作付地の解消につなげる。

（４）麦、大豆、飼料作物

　転換作物の主軸として作付けを推進する。また、圃場の排水対策強化、麦＋大豆の輪作体系による品質向上を図る。

（５）そば、なたね

　市を代表するブランド作物であるソバについて麦の後作として作付けを推進する。また、圃場の排水対策を徹底し、収量、品質向上に努める。

（６）地力増進作物

　間作・後作緑肥の導入による有機物の補給や、計画的なローテーションの実施により地力増進や連作障害の回避、生産向上を図る。

（７）高収益作物

　地域特産物の作付けを推進し、団地化と生産組織の育成に努め生産の維持及び拡大を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	2,422	0	2,505	0	2,505	0
備蓄米	0	0	5	0	5	0
飼料用米	29	0	30	0	30	0
米粉用米	1	0	5	0	5	0
新市場開拓用米	40	0	50	0	50	0
WCS用稲	22	0	21	0	21	0
加工用米	117	0	120	0	120	0
麦	850	0	850	0	850	0
大豆	114	105	117	105	117	105
飼料作物	21	4	22	5	22	5
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	766	707	770	710	770	710
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	3	1	0	0	0	0
高収益作物	203	8	205	5	205	5
・野菜	184	8	185	5	185	5
・花き・花木	8	0	9	0	9	0
・果樹	11	0	11	0	11	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
・〇〇	0	0	0	0	0	0
畑地化	2	0	0	0	0	0

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	里芋	特産作物作付助成	作付面積	（Ｒ７年度） 5350ａ	（Ｒ８年度） 6000ａ
2	里芋	特産作物拡大助成	作付拡大	220ａ	300ａ
3	菊、ナス、 穴馬スイートコーン	特産作物作付助成	作付面積	菊 685a・ナス 120a 穴馬ｽｲｰﾄｺｰﾝ 155a	菊 700a・ナス 150a 穴馬ｽｲｰﾄｺｰﾝ 170a
4	穴馬スイートコーン	特産作物拡大助成	作付拡大	4a	10a

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：大野市農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	特産作物作付助成（里芋）	1	15,000	里芋	作付面積に応じて支援
1	特産作物作付助成（里芋）（二毛作）	2	15,000	里芋	作付面積に応じて支援
2	特産作物拡大助成（里芋）	1	16,000	里芋	過去2年のうちどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成
2	特産作物拡大助成（里芋）（二毛作）	2	16,000	里芋	過去2年のうちどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成
3	特産作物作付助成（菊）	1	7,000	菊	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成（菊）（二毛作）	2	7,000	菊	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成（ナス）	1	7,000	ナス	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成（ナス）（二毛作）	2	7,000	ナス	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成（穴馬ｽｲｰﾄｺｰﾝ）	1	44,000	穴馬スイートコーン	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成（穴馬ｽｲｰﾄｺｰﾝ）（二毛作）	2	44,000	穴馬スイートコーン	作付面積に応じて支援
4	特産作物拡大助成（穴馬ｽｲｰﾄｺｰﾝ）	1	15,000	穴馬スイートコーン	過去2年のうちどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成
4	特産作物拡大助成（穴馬ｽｲｰﾄｺｰﾝ）（二毛作）	2	15,000	穴馬スイートコーン	過去2年のうちどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。